

2022 Asia Triathlon Cup Subic Bay TD参加報告

14th Jan, 2023

井口 大介 (TRI Level 2 Technical Official)
(一社) 東京都トライアスロン連合



大会概要



大会名: 2022 NTT Asia Triathlon Cup Subic Bay
開催地: Subic Bay経済特別区, Philippines 開催日: 01 May, 2022
競技距離: スイム 1.5 km (2周)、バイク 39.34 km (2周)、ラン 9.65 km (5周)
参加者: Elite Men 38名 (日本9名), Elite Women 23名 (日本6名)
(以下アジアカップ外) Junior Elite (16-19歳) 13名、Super Sprint (13-15歳) 26名、AG Sprint Distance 118名、AG Standard Distance 271名



競技役員・審議委員



- Daisuke Iguchi, World Triathlon Technical Delegate
- Marie Josephine Zafra, World Triathlon Assistant Technical Delegate
- Dr. Ireneo Bautista, World Triathlon Medical Delegate
- Fabian David, World Triathlon Head Referee

審議委員：

- Daisuke Iguchi, Chair
- Tomas T. Carrasco Jr. President of Triathlon Association of the Philippines (TRAP)
- Red Dumuk TRAP



フィリピン入国関連



・ 隔離措置なし入国の必要書類 :

- ① ワクチン接種証明 ② RT-PCR検査（出発48時間前以内）か迅速抗原検査（出発24時間前以内）陰性証明書（英文） ③ 出国（30日以内）の航空券（他、最低補償額35,000USD以上の海外旅行保険加入が必須）

・ 出発前の手続き :

- ① One Health Pass登録（日本のMySOSに相当。出国24時間前まで）スマートデバイスでの携行必須。
- ② 接触追跡アプリ（Traze）登録
- ③ 帰国用PCR検査受診の事前登録（Philippines赤十字）



大会のCOVID-19対応



・大会SAFETY PROTOCOLを制定し、これに従った運営がなされた。具体的には、WTやSBMA(Subic Bay Metropolitan Authority)などの規定の遵守に加え、関係者全員の前日抗原検査の実施（選手はレジストレーション前）、Health Declaration Form持参、マスクおよびリストタグ着用、大会当日受付時の検温など。

★ 関係者全員の検査で、基本的に陰性の人は大丈夫との前提で動いた。だから対面のブリーフィングも実施。とはいえ競技中の選手以外すべてマスク着用。

・選手はトランジション→スイムエリアの移動からマスクなし。フィニッシュエリア出口でマスク受け取り。

・フィニッシュエリア近辺をメインに、観客の密集を防ぐスタッフを多数配置。

・医療体制: 3 Medical Tents with Medical Team (Start and Finish), 4 Ambulances

・なお開催時点でのフィリピン国内の新規感染者数は1日200人前後と、日本より遥かに低い水準。



現地入りまで



- ・基本、開催準備についてはaTD・Saritaさんを介してのやりとり。様々な要求に迅速に対応してくれた。
- ・AGのTDのアサインがなく、大会TDとしてAGのコースを含む競技環境の承認等を行なった。AG競技は実質RDのRamonさんが仕切っていた。
- ・過去大会からコースが大きく変更となり、コースおよびVenue案、スケジュールがなかなか出てこなかったが、得られた情報を元にランシート、ブリーフィング資料作成を進めた。コースについてはGoogle map等での把握には限度があり、多くは現地確認となった。
- ・WTからはアンチ・ドーピングの Protokol 遵守など頻繁な確認があり、その都度対応した。



現地入り～レース前日



- ・ 4月28日（木）：午後現地到着。Ramonさん、Saritaさんとコース視察。道路工事のためバイク（2周回）の最遠点折り返しが急遽変更となり、その案を含め全コース視察した。手前側折り返しも新たに設定せねばならず、この場で検討。Ramonさんが翌朝オートバイでGPS計測して確定。
 - ・ 29日（金）：主なTOと顔合わせ後、バイクコースとトランジションレイアウトの確定と各種ミーティング。障害物があるなどでトランジションはさらなる変更を強いられたが、夕方までに配置と動線を全て確定。その後、ランコースの距離実測を実施。
 - ・ 30日（土）：午前はスイムコース試泳、その後バイクコース試走。試走後、ホテルで迅速抗原検査。さらに日本選手団と帰国用のPCR検査。予定通り18時から対面で競技説明会を実施。
- *バイク試走で先導モーターバイクがミス(競技説明会で正しいコースを説明)



Swim Course Map

- 2 laps of 750 m
- Water temperature: 27.7°C.
- Air temperature: 27.5°C.
- Wetsuits not allowed
- Distance to the first turn buoy 345 m

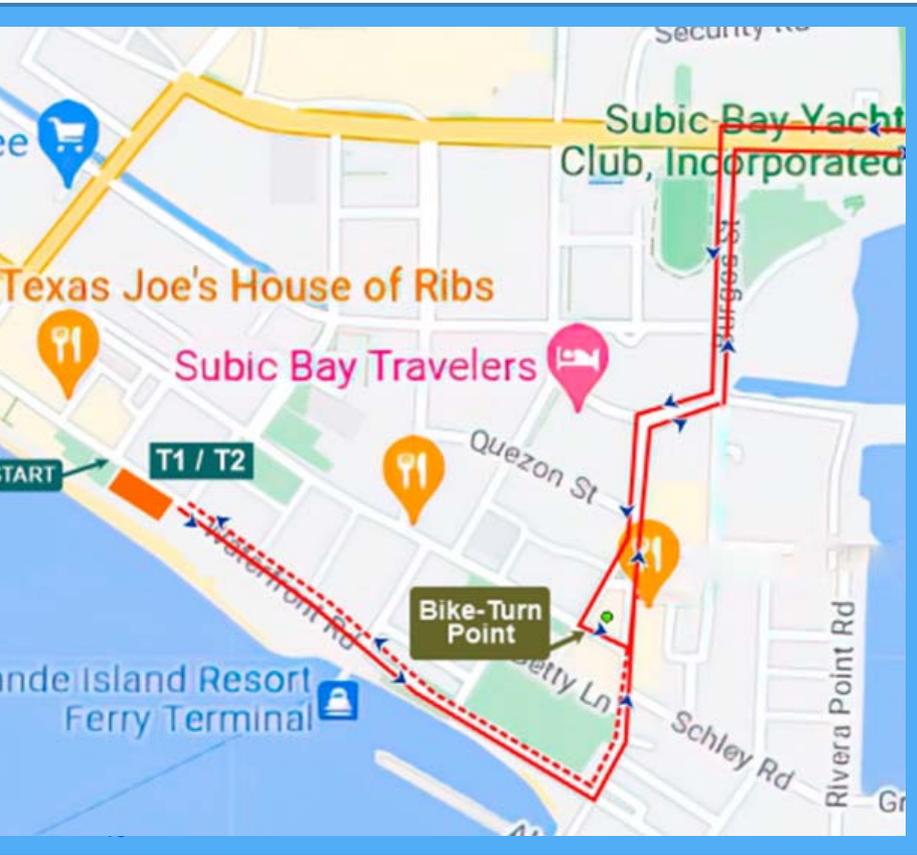
AGの安全確保のため、スイムコースの内側はコースロープ設置だが、前日は潮流と風で大きく湾曲する問題あり。コースロープに沿った距離で1周750mが設定されていたが、第1ブイまでの距離は直線で測ることとし、その旨を競技説明会で伝えた。

大会当日の湾曲は問題ないレベルだった。



Bike Course Map

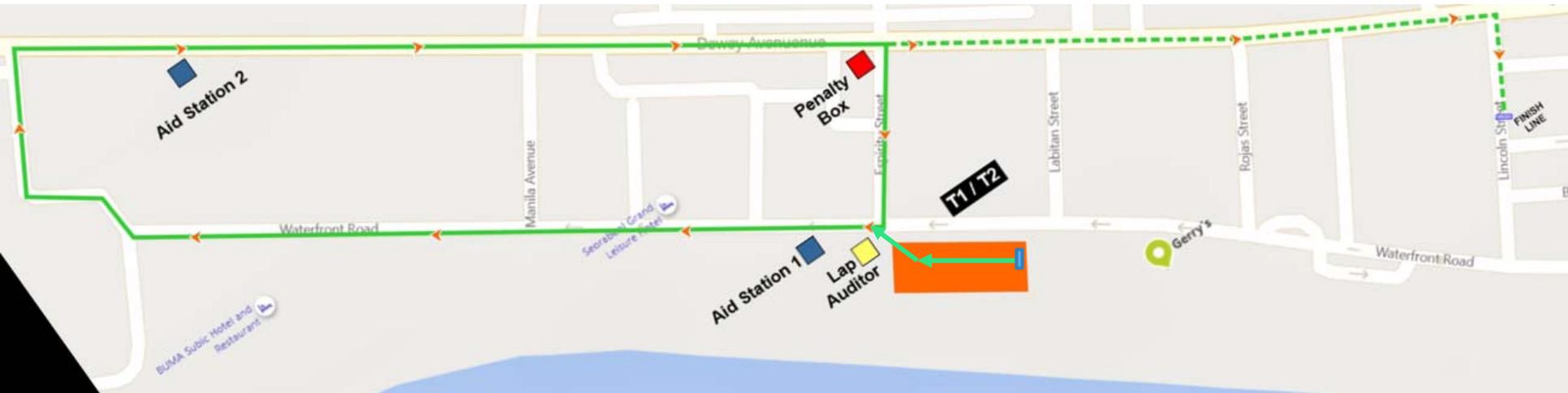
2 laps of 20 km (19.67 km x 2 = 39.34 km)



Run Course Map



5 laps (0.07km + 1.85 km x 4 + 2.18 km = 9.65 km)



レース当日



- ・男子エリートのスタート前、ボートとカヤックを選手動線に干渉しない位置まで引かせた。しかしボート1隻が無人で係留されていたもので動かず。そのままスタートさせるが、選手はうまく避けて泳いでいた。
- ・疲労と脱水による救急搬送1件（女子）以外大きな事故もなく無事終了。
- ・フィニッシュエリア周辺での人混みには十分対処できておらず、多数のAG選手がマスク着用を忘れて談笑する姿が見られた。しかし、抗原検査陽性ゼロといった状況からは許容範囲か。
- ・AGで、マウント・ディスマウントの違反に15秒ペナルティを多数適用していた。ディスマウント担当者に聞くと、是正できなかった選手のナンバーを連絡したところ、HR判断でタイムペナルティとなったという。途中で変えるのは適切でなく、この処置を続行させた。

帰国関連



3回のワクチン接種証明、帰国72時間前以内のRT-PCR検査陰性証明を持ち、入国時の抗原検査が陰性であれば、隔離措置なし。

・帰国前手続き：

- ①PCR検査：日本選手団担当の旅行会社（HIS）にLOC経由でまとめて手配いただいた。オフィシャルホテルで大会前日午後に検査実施。結果は、事前登録したアドレスに日本政府指定のフォーマットでメール送付される。
- ②各種アプリのインストール、ファストトラック（事前登録による入国時の検疫手続簡素化）のための質問票、誓約書、ワクチン接種証明書、PCR検査証明書のMySOS登録(PDFを受け付けず、とても難儀した)。

・帰国時の検疫：

約1時間を要した。ファストトラック登録せず紙で持参した人と同じようにスマホ画面でのチェックを受け、同じ検査を受けており、全く「ファストトラック」ではなかった。



総括



- ・スービック・ベイは赤道と北回帰線のほぼ中間に位置し、レース当日は真昼の太陽高度がほぼ90度の、いわば真夏の大会。好天に恵まれ、大きな事故等なく大会は成功裡に終了した。
- ・コロナ渦が終わらない中の開催であり、関係者全員の前日抗原検査（全員陰性であったとのこと）など、徹底した対策がとられていた。当時感染終息が見えなかった日本における大会開催にとっても参考になった。
- ・大会全体として、特にAG選手と観客の盛り上がりが凄く、3年ぶりに開催できた喜びに溢れていたと感じた。TRAPを中心とした大会運営の一体感が素晴らしく、TDとして関わらせていただいたことを誇りに思うと同時に、大会関係者の皆様に感謝したい。参加にあたり、JTUIに現地とのやりとりなど様々なご支援をいただいた。深く感謝したい。



大会写真



エリートランジション（レース前夜）ランコース風景（レース中）

Ramonさん, Saritaさんと



レースブリーフィング



2022 World Triathlon Cup Miyazaki

aTD報告（競技運営と技術対応）

14th Jan, 2023

井口 大介 (TRI Level 2 Technical Official)
(一社) 東京都トライアスロン連合



報告概要



報告に先立ち、急逝されました宮崎県トライアスロン連合・浜山事務局長のご冥福を心からお祈り申し上げます。浜山さんの支えなしでこの大会はなかったと思います。

AGENDA: (競技実施の詳細はHead Referee・永塚さんより報告)

- ・ 大会概要
- ・ 競技運営とCovid-19対応
- ・ 競技の課題と対応 — スイムコース問題
- ・ 全体所感

大会概要



大会名: 2022 World Triathlon Cup Miyazaki

開催地: 開催日: 01 May, 2022

距離: Swim 女子750m (1 lap)男子740m (短縮), Bike 20km (4 laps), Run 5km (2 laps)

水温: 21.8°C. 気温: 17.4°C. (女子レース前), Wetsuits not allowed

参加者: 女子 47名 (44名完走), 男子60名 (54名完走)

競技役員 :

Melody Tan (MAS)

World Triathlon Team Leader

Omar Bin Abu Bakar (SGP)

World Triathlon Technical Delegate / Competition Jury Chair

Dr. Ryoji Kasanami (JPN)

World Triathlon Medical Delegate

Miki Nagatsuka (JPN)

World Triathlon Head Referee

Shin Otsuka (JPN)

Competition Jury / World Triathlon Vice President

Miles Stewart (AUS)

Competition Jury / World Triathlon EB Member



競技運営



- ・ 8月からWT(TL, TD)およびJTU/宮崎LOCとそれぞれほぼ隔週でオンラインミーティングを行い、準備状況を確認してきた。
- ・ 過去2年のLevel 1新規取得者と急遽決まった海外TO受入れで、SFTOは40名と、競技の規模からすると若干人数過多となった。
- ・ 情報の事前展開が全般に遅かったのは反省点（TD・Omarが宮崎入り前週まで「情報の孤島」イランに滞在しており、approve等がとれず）
- ・ MD・笠次先生を中心に、念入りなSwim Rescue Simulation (Reharsal)が行われた。実際に救助にかかる時間計測を行い、救助スキームと導線等の妥当性を確認できた。Simulationは全国の大会で標準的に行われるべきと考える (JTUで標準化検討)



World Triathlon
IP
YAZAKI
2022

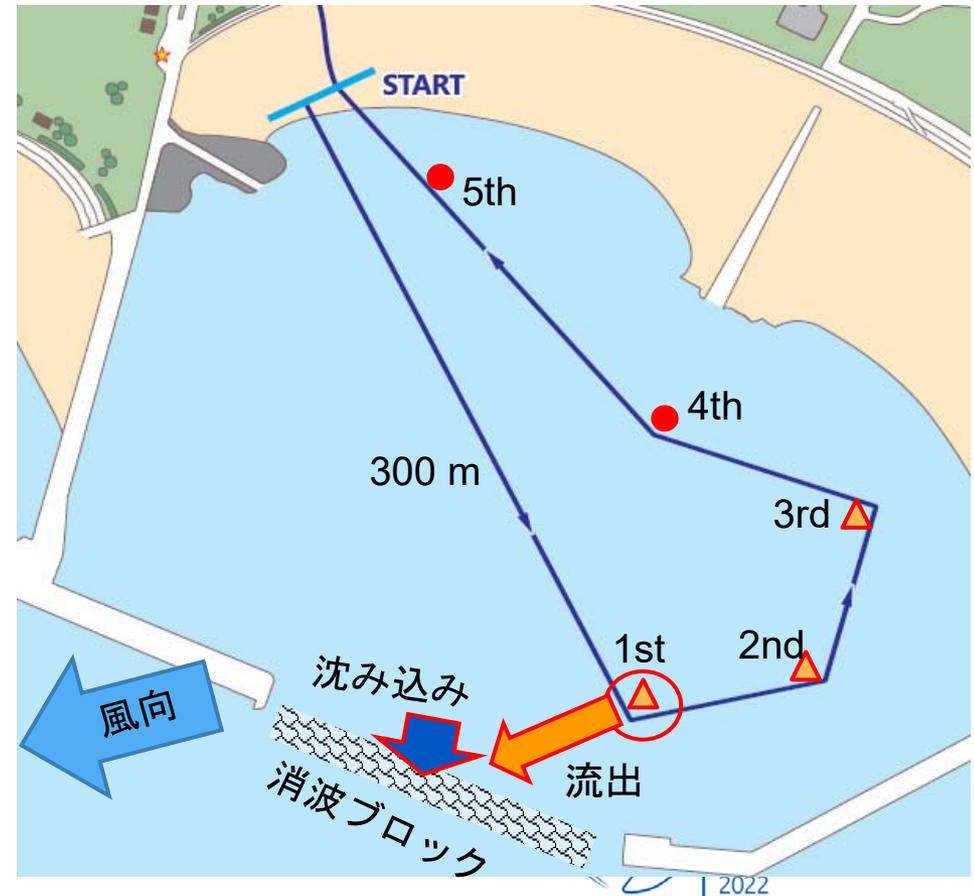
Covid-19関連



- ・ 競技中の選手以外の常時マスク着用など、感染対策の基本は遵守されたと
思われる。
- ・ 詳細な「海外入国者受入計画」が策定されていたが、10/13からの入国規制
緩和で選手受け入れポリシーなど大きな変更が生じた。概ね問題なく対応。
海外TOの受け入れも急遽決まって5名を受け入れ（韓国4、米国1）、ほぼ確
定していた配置の大幅見直しが生じた。
- ・ 選手はWTのシステムで事前に情報登録（Pre-Event Covid-19 screening）
するが、未登録者20名超。レジストレーションでパッケージ受け渡し前で登
録完了できるよう対応いただいた。

競技の課題と対応 — スイムコース問題

- ・ レース当日波が大変高く、風も徐々に強くなった。第1～第3ブイを白の大型ブイから三角ブイに変更（第4,5は三角ブイが足りず赤の丸ブイに変更も、視認性に難）
- ・ 女子レース開始時、第1ブイが流されかけていたがそのまま実施。レース中TO IRB1艇が転覆、もう2艇もエンジン不調発生。選手追尾できず。
- ・ 男子レース時にはさらに波風が悪化し、消波ブロック付近に沈み込む流れが発生し危険なため、第1ブイを放棄して距離短縮で実施した。
- ・ 次年、スイムコースの全面見直しは不可欠。



全体所感



- ・男子スイムコース短縮等あったが、レース進行はスムーズで大きな問題なく実施できた。
- ・10/13入国規制緩和などの変化への対応はタイムリーにできた。
- ・事前準備が不十分な点が多々あったが、TOの皆様の現場力でカバー頂いた。
- ・DPTOの皆様の真摯な取り組みから良い刺激を受けることができた。頂いた貴重なご意見を生かしていきたい。

その他運営面の反省：

- ・エイジ大会におけるSFTOの扱い：LOC側から基本はエリート競技に準じて配置するとの説明であったが、当日朝まで未確定扱いのTOが多数。またエリート競技でもローカルのTO配置のすり合わせ不十分など反省点。
- ・バイク危険個所（バイパス降りたコーナー一部）対応など要見直し。



World Triathlon
Cup
MIYAZAKI
2022



Triathlon Age Group
Japan Championships
Miyazaki
2022

